

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		精神保健啓発事業（障害者社会参加促進事業）						予算事業名		障害者社会参加促進事業費（基本事業）				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律					
				03	01	03	3307	経常経費	根拠法令					
総合計画体系		1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						事業の区分		主要事業				
		1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）												
		①健康づくりの推進						担当課係等		健康増進課				
3健康な心づくりの支援						健康増進係								
事業期間		継続（平成 9年度～ 年度）												
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
精神障害者が集団生活訓練を通して自立した日常生活が行えるとともに，安心して社会生活が営める。また，地域住民が精神疾患及び精神障害者に対する正しい知識と理解をもち，もって地域の支援力が向上する。							平成9年度県のモデル事業として，県精神保健福祉センターの支援を受けて開始。2年間のモデル事業実施後，市の事業となった。筑西保健所で実施されていた精神デイケアは平成17年度で終了。筑西保健所管内では，筑西市が実施している。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
こころの病に対する知識の普及啓発 ・精神デイケア（創作活動，スポーツ，料理，話し合いなどを通しての集団生活指導） ・個別相談(電話，面接，家庭訪問) ・精神デイケア審査会 ・精神保健福祉ボランティアの育成 ・精神保健福祉市民講座の開催							・精神疾患（主に統合失調症）患者で，デイケア参加について主治医の了解が得られている者 ・障害者社会参加促進に協力できる市民 ・精神保健に興味のある市民 【事業をとりまく環境の変化】 精神障害者の地域生活の移行を促進するため平成25年6月法律の一部改正が行われた。精神科の医療面では，市内において精神科のクリニックや病院がないため，近隣市町村の医療機関を利用しているのが現状である。また，精神障害者の家族は高齢化しており，地域全体で支えていくことが必要であり市民の理解や支えが不可欠である。さらには，関係機関との連携強化をすすめ，地域の受け皿を整備していくことも課題である。							
【令和 3年度 事業内容】					【令和 4年度 事業内容】					【令和 5年度 事業内容】				
・精神デイケア（創作活動，運動，料理，話し合いなどを通しての集団生活指導） ・個別相談(電話，面接，家庭訪問) ・精神デイケア審査会 ・精神保健福祉ボランティアの育成 ・精神保健福祉市民講座の開催					・精神デイケア（創作活動，運動，料理，話し合いなどを通しての集団生活指導） ・個別相談(電話，面接，家庭訪問) ・精神デイケア審査会 ・精神保健福祉ボランティアの育成 ・精神保健福祉市民講座の開催					・精神デイケア（創作活動，運動，料理，話し合いなどを通しての集団生活指導） ・個別相談(電話，面接，家庭訪問) ・精神デイケア審査会 ・精神保健福祉ボランティアの育成 ・精神保健福祉市民講座の開催				
■事業費														
				R01年度		R02年度								
財源内訳	国庫支出金			68		86								
	県支出金			34		43								
	地方債			0		0								
	その他			0		0								
	一般財源			35		46								
歳入計（千円）				137		175								
歳出内訳	節（番号＋名称）				金額（千円）		金額（千円）							
	07	報償費			31		49							
	10	需用費			67		70							
	11	役務費			37		52							
	19	扶助費			2		4							
	歳出計（千円）（A）				137		175							
伸び率（％）						27.73								
備考	総合計画 50 ページ 予算書 75 ページ													

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	精神保健福祉市民講座開催数	回	目標	1.00	1.00	1.00
	市民に対し、こころの病についての正しい知識の普及・啓発と精神疾患患者への地域の支援力を向上するための講演会を開催する。		実績	1.00	0.00	0.00
	精神保健福祉ボランティアの活動人数	人	目標	15.00	13.00	13.00
	精神デイケアをはじめとした精神保健事業に協力するボランティアの活動人数		実績	15.00	0.00	0.00
成果 指標	精神保健福祉市民講座参加者数	人	目標	80.00	80.00	80.00
	より多くの市民が、こころの病に対する正しい知識を持つことで、地域の支援力向上につながる。		実績	67.00	0.00	0.00
	精神保健福祉ボランティアのデイケア活動への延協力延べ人数	人	目標	130.00	130.00	130.00
	デイケアをはじめとした市の保健事業で精神保健福祉ボランティアが活動を実施した人数		実績	197.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	様々な障害福祉サービスはあるものの、就労支援事業までに到達できない者の社会復帰への足掛かりとして必要性はある。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	民間事業所や医療機関のデイケアが増加すれば、実施主体は行政でなくともよいが、現時点では、民間事業所でデイケアを実施する場所がなく、医療機関は市外となるため、行政で継続していく必要がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	地域生活支援事業に基づき実施しており、妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	担当職員だけでなく、精神保健福祉ボランティアの協力も得ながら実施している。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	毎年お知らせ版で周知し募集しているが、参加の条件を満たす応募者が少ない現状にある。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	地域への社会復帰という形で卒業した者が1人、高齢となり他部署につないで卒業した者が1人いるが、就労支援事業所につながった者はいない。しかし、支援を必要とする者に対し必要な支援が行われている。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	市デイケアの参加条件を満たす者（デイケアに参加している者）に対しては支援ができていないが、当課では、市デイケアに参加できない者への支援策がないため、関係部署と連携しながら、自立支援医療や障害福祉サービス等につなぐよう支援している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
市民に対し、精神保健福祉市民講座を実施し、精神疾患が身近な病気であることを周知・啓発事業を継続している。また、精神障害者へのデイケア事業の実施・精神保健福祉ボランティアの育成をしており、集団活動を通し、社会復帰を促進・支援している。だが、精神デイケアについて、参加者については毎年募集しているが応募者が少ないこと、継続して参加しても、活動性がなかなか高まらず、就労支援事業等の段階まで到達することが難しい状況にある。まずは、継続してきちんと参加できるようにするところから生活習慣を整えていく必要がある。ボランティアについては、高齢化していることもあり、一昨年度養成したボランティアをさらに育成していく必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
精神疾患に対する周知・啓発活動を継続し、精神疾患があっても、その人らしく住み慣れた地域で暮らしやすい仕組みを構築する必要がある。デイケア事業については、参加者の個別支援について、生活状況による支援と必要に応じて医療機関や関係部署と連携を図り、状態をよりよい方向に安定させるとともに、集団による効果を生かしながら、社会復帰を目指していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 地域の精神障害者の課題解決のため関係部署及び関係機関と連携し、共生社会の実現に向けた取り組みを推進する。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	